

／わたしの好きな標茶／



い・と・お・し・ぎ・の・あ・る・ま・ち・へ
標茶暮らし、はじめの一步。

標茶町
移住パンフレット

HOKKAIDO
SHIBECHA
TOWN



標茶町って どんなまち？

北海道の東側・道東エリアのほぼ中心に位置する標茶町。
町の総面積は、東京都の約半分。広大な牧草地では約5万頭もの乳牛が育ち、おいしい牛乳や乳製品が製造・販売される酪農地帯です。
「釧路湿原国立公園」「阿寒摩周国立公園」の2つの国立公園と、「厚岸霧多布昆布森国定公園」があり、貴重な動植物が生息する自然の豊かさも魅力です。
町内にはJRの駅もあり、道東エリアの空港からのアクセスも良好。
牧歌的な風景、豊かな自然。このまちでの暮らしには、飾らない魅力が詰まっています。

“本物の自然”に出会えるまち

四季折々の自然風景が広がります。湿原を中心とした豊かな自然の中、特別天然記念物のタンチョウをはじめ、シマフクロウやヒグマ、キタキツネなど多くの野生動物が暮らすなど、“本物の自然”に出会えるまちと言えるのです。



スケールの大きなまち

まちの面積自体はもちろん、湿原、放牧地など、一つひとつが広大。思わず深呼吸したくなるような、北海道らしい伸びやかなスケールが体験できます。塘路湖を一望できるサルゴ展望台などビュースポットも点在しているので、ドライブしながら巡ってみるのもおすすめです。



いと、おいしいまち

人も自然もすばらしく、大きなポテンシャルを秘めているのに、スポットが当たる機会はやや少なめ…？ ちょっぴり「惜しさ」はあるけれど、まちの人はそんなところに「愛おしさ」を感じている。そんな大らかさも、このまちの魅力です。



R6年度よりタウンプロモーション事業に取り組み、「しべ推し」というキャッチコピーとロゴを作成しました。

牛たちがゆったりと草を食むまち

標茶の基幹産業と言えば酪農。町全体で約5万頭の乳牛が飼養され、国内屈指の酪農地帯として知られています。牛たちがゆったりと草を食む光景は、このまちの日常。健やかに育った牛たちから搾った「しべちゃん牛乳」のほか、おいしい乳製品も作られています。



田舎に馴染むコツは、 一人一芸？

大阪出身の希さんは、敦さんとの結婚を機に標茶へ。新天地での暮らしを支えてくれたのは、「地域のコミュニティ」だったと振り返ります。今では自身の経験をもとに、敦さんと協力しながら、従業員の住まいを整えたり、移住者と地元の人をつなぐ橋渡し役を担ったりと、前向きに地域に関わり続けています。

デザイナーとしての経歴を持つ希さん。移住後は、町のPRキャラクター「ミルクックさん」をきっかけに、地元の人たちと少しずつつながりを築いてきました。「何か一芸があると、人との接点が生まれるんです。パンづくりでも家庭菜園でもいい。これが好き」という気持ちを伝えることが、田舎ではすごく大事かもしれません。

方。原田牧場では、朝と夕の作業の間に半日ほど自由な時間があるそう。「たとえばその時間を使って、ものづくりや別の仕事に取り組みむのもOK。そんな柔軟な働き方にも可能性を感じています」。

原田牧場があるのは、中虹別と呼ばれる昔ながらの酪農地帯。地域の集まりが多く、「困ったときはみんなで力を合わせて解決する」という風土が、今も自然に根づいています。「地方で一次産業に携わりながら暮らしていくとき、人との関わりは切っても切り離せないもの。そんな煩わしさも含めて、この土地での暮らしを楽しんでもらえたら」。

標茶ファン、酪農ファンが一人でも増えてくれたらうれしい。そんな思いを胸に、2人は今日も前向きなアクションを積み重ねています。

お金よりも大切なもの。 困ったときは「人の力」。



200～300頭の乳牛を育てる原田牧場。「基本を大切に、とにかく牛たちの健康が一番に考えています」と、敦さん。



希さんが町内で相談を受け、手がけたデザインの一部。対価はいつも物々交換なのだとか。



希さんがデザインしたミルクックさん(画像右)と、敦さんの発案から生まれたハッピーくろべえ(画像左)。町のPRキャラクターとして活躍しています。

ACCESS

札幌駅	約5時間	JR 標茶駅	特急おぞら + 釧網本線
釧路駅	約1時間	JR 標茶駅	釧網本線
網走駅	約2時間20分	JR 標茶駅	釧網本線
札幌駅	約5時間	JR 標茶駅	※道央自動車道・道東自動車道の一部利用
釧路市	約1時間	JR 標茶駅	
中標津町	約50分	JR 標茶駅	



原田 敦さん(標茶町出身)
希さん(大阪府出身)

原田牧場3代目である敦さんと、結婚を機に大阪から移住した希さん。新規就農者の支援や女性の農業者向けの勉強会をサポートするなど、地域のための活動に積極的に関わっています。



塘路に流れるきれいな空気を、
胸いっぱい吸い込んで。

安田 京太郎さん(千葉県出身)
くれば
紅葉さん(鳥根県出身)
のどか
和楓くん

2023年に結婚し、2024年に塘路へ移住。元々IT関連の会社に勤めていた京太郎さんは、移住を機に独立。現在も自宅にてIT関連の仕事を行っています。2025年春に和楓くんが誕生し、3人暮らしに。



すぐ側に、湖がある暮らし。
自然との距離の近さが、
心の余裕に。

青坂 さつきさん(別海町出身)

転勤族の家族のもと、道東で生まれ育ち、大学進学後は帯広の出版社へ。退職後、デザイナーとして独立し、2024年秋に塘路へ。リノベーションした住宅で、2匹の愛猫と暮らしています。

子どもの頃から通った、
ホームのような場所で。

千葉県出身の安田京太郎さんにとって塘路地区は、ホームのような場所。「カヌーガイドを営む家族を訪ねて、子どもの頃から何度も遊びに来ていました。湖で思い切り遊んだり、時にはガイドを手伝ったり。大人になるにつれて自然と、「いつかここで暮らしたい」と思うようになりました。元々知り合いも多く、新しい土地で暮らすという意味での『移住』とは、少し違っていたかもしれません。

そんな京太郎さんが移住を実現させたのは、紅葉さんと結婚してからのこと。喘息に悩む紅葉さんと暮らす中で、「空気のきれいな塘路で過ごせたら」と考えるようになった。2024年の冬、物件が見つかったことをきっかけに、この土地へと移り住みました。現在はフリーランスとしてIT関連の仕事をしなが

湖、森、湿原。奥行きのある風景に惹かれて。

「塘路って、いい土地だな」。塘路湖でのカヌー体験をきっかけに、そう思うようになった青坂さつきさん。風いだ湖と、それを囲む森。少し車を走らせれば、湿原や遠くの山並みが広がる。そんな表情豊かな自然や、奥行きのある風景に心惹かれ、それから折に触れて足を運ぶように。元々「湖のあるまちでの暮らし」に憧れがあったこともあり、塘路への移住を意識するようになりました。

その夢が叶ったのは、2024年秋。新聞で現在の物件を見つけたのが転機でした。「見た瞬間に、ピンと来て。塘路という場所も、家の佇まいも理想的でした」。町の助成制度を活用してリノベーションし、コツコツ集めてきた古道具や家具を並べて。元の造りを活かした、センスあふれる空間が完成しました。

休日はカヌーガイドの手伝いへ。忙しくも充実した日々を過ごしています。

思う存分深呼吸できる、
空気のきれいさ。

塘路での暮らしについて紅葉さんに尋ねると、「何より空気がおいしい。胸いっぱい空気を吸うことができるのが本当に幸せです。普通のことかもしれないけれど、都会ではそれができず苦しかったので」と、笑顔を見せてくれました。紅葉さんにとって塘路は元々、縁のない土地。それでも、「京太郎さんと一緒に」「不安はなかったと話します。地域の運動会に参加するなど、早くもこの地域に馴染んでいる様子です。

2025年春には、長男・和楓くんが誕生。かつての京太郎さんのように、「塘路の自然の中で思い切り楽しんでほしい」というのが、今の2人の願いです。

「頼れる仲間」との
出会いが後押しに。

塘路への移住に関して、不安がなかったわけではない。そんなときに支えてくれたのが、地域で暮らす仲間存在でした。「たかさんの方にお世話になりました。中でも趣味の写真や、カヌーを通して知り合った女性がいづも気にかけてくれて。地域のことを教えてくれたり、コミュニティを紹介してくれたり。そんな支えがなかったら、移住に踏み切れなかったかもしれません」。本当に感謝しています。移住後も、町内で暮らす仲間たちと写真展を開催したり、自然の中で一緒に過ごしたりと、豊かな時間を過ごしているそうです。

湖のある小さなまちで。自分のペースを大切に、そして地域の人たちとの関わりにも目を向けながら。この土地での暮らしを、丁寧に味わおうとする青坂さんがいます。



観光シーズンになると、京太郎さんはカヌーガイドの手伝いへ。普段は自宅で仕事をしている分、リフレッシュにもなるそう。



タンチョウやキツネなど日常的に野生動物と出会う環境も、2人にとって魅力の一つ。



塘路生まれの和楓くん。家族みんなで自然の中で遊ぶ日が楽しみです。



自宅の前には手づくりの小さな庭が。エゾシカが若芽を食べてしまうという、自然と近いからこそその悩みも。



愛猫の、ぼんゆとばんな。名前の由来は、かや沼に出来た温泉施設ぼん・ぼんゆにちなんで。



移住のきっかけにもなった仲間と塘路湖畔を散策したときの一枚。カヌーや登山などを楽しむことも。

子育て支援

制度名	対象	内容
保育料無料	すべての園児	保育負担金、一時保育料、早朝保育料、給食費などの全面無料化を実施
子育て支援医療費還元制度	0～22歳（大学や専門学校に通学している方）	医療費自己負担分を町内お買物券で還元
学校給食費無償化	町内の小中学校の児童生徒	全額無償化
みるくっく券	乳児の保護者	子育て用品5万円分の応援チケットを交付

子育てサロン

ふれあい交流センターでは、子育てサロンや子育て講座を開催しています。

子育てサポートセンター

保育園の送迎や一時預かりなどの援助を受けられる会員制度があります。

※講座を受講した会員が協力し合い、保育園の送迎や一時預かりなどの援助を受けられます（1時間500～600円）。

産後ケア(助産院と連携)

釧路町の助産院と提携し、出産後の育児不安や授乳相談に対応しています。

妊婦健診・産後健診にかかる費用の助成

無事に出産を迎えるまでの妊婦健診費および産後の産婦健診の費用を助成しています。また、特定不妊治療にかかる費用の助成制度もあります。

教育

学校

小学校／5校 中学校／3校 高校／1校

地域の自然環境を活用して、学校ごとに特色ある授業が行われています。特に郊外の学校は少人数の学級が多いため、学年を越えた交流が多く見られます。

標茶高校

「日本一広い高校」として知られる標茶高校は、自然と暮らしとの関わりや、地域の産業など、幅広く体験的に学ぶ「総合学科」の高校です。基幹産業である酪農の理解や生徒の興味・関心に合わせた多彩な学習の場を提供しています。授業の一環として製造・販売されるヨーグルトやウインナーなどの商品は、町内外のイベントでも大人気です。

暮らしの情報

市街地にはスーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンターがあり、日常の買い物には困りません。休日には、車で釧路のショッピングモールへ出かける町民も多いです（車で約1時間）。

暮らしを支える制度いろいろ

実際に移住を考える上で気になる、住まいや仕事、まちのサポートのこと。移住にまつわる制度や、移住後の暮らしのサポートについてまとめました。

詳細・問い合わせは標茶町役場観光工商課交流推進係まで
TEL：015-485-2111 MAIL：k_koryu@town.shibecha.lg.jp

役場HPでも移住情報を掲載しています。



移住支援

制度名	内容	備考
標茶町移住応援給付金	町外から塘路市街地へ移り住み、土地を取得・住宅を新築または購入される方を対象に、最大170万円支給します	家族構成等による加算あり
マイホーム応援事業	住宅を新築・リフォームされる方を対象に、最大30万円相当のお買物券を提供します	上限：新築(30万円) リフォーム(20万円) 水洗化改造工事(3万円)
不動産ネットワーク	空き地・空き家情報をHPで紹介しています	随時更新
町有地売却	麻生・平和・塘路地区の町有地の売り払いを行っています	価格は役場HPに掲載

お試し住宅

標茶町への移住をお考えの方に、実際の暮らしを体験していただくための体験住宅を貸し出ししています。詳細は、役場HPをご確認ください。



移住サポート隊

現在、移住政策を進めている塘路地域では、地域の振興会と役場が連携し、より良い移住に向けた取り組みを開始しています。先輩移住者が塘路での生活の仕方についてなど、実際に生活しているからこそわかる暮らし方を伝授してくれます。



私たちも全員元移住者です。地域のコミュニティに参加しながら、この地域での暮らしを楽しんでもらえたらうれしいです。

仕事に関する支援

起業支援

商業・サービス業として、新しく店舗や事務所を開業または規模拡大する個人・法人に対して、「標茶町GOGOチャレンジ支援事業補助金」を交付しています。

就農支援

町内で新規就農する方を対象に、新規就農奨励金の交付や研修費などの助成を行っています。研修中から就農後まで段階的な支援が充実しています。詳細は、農林課農業企画係（TEL.015-485-2111）までお問い合わせください。

「夢を後押しする環境」

自然環境や文化などの体験を通して学べる総合学科に惹かれて、東京から移住しました。いつも周りの人たちが背中を押してくれるので、興味のあることに挑戦しやすい。部活も寮生活も楽しく充実しています！

標茶高校 泉潤さん

「水のおいしさ」

真夏に蛇口からキンキンに冷えた水が出ることにずっと感動しています。

標茶町観光協会 炭田晃希さん

「釧路湿原のすばらしさ」

圧倒的なスケール、緩やかに蛇行する釧路川、そして流れの穏やかさ。どれをとっても唯一無二。その素晴らしさに惹かれて移住し、20年以上この土地で暮らし続けています。夏色に染まる湿原も、冬も、美しいです。

釧路湿原とうろの宿 小川清史さん

「支え合いの風土」

私たちが暮らす塘路エリアは人が少ない分、みんながぎゅっと集まって仲が良くて。あったかい人ばかりです。子どもの成長をみんなで見守ることができて、子育てがしやすかったな。夕焼けのきれいさも魅力的。

プレッツェモロー
Pasta&Coffee Prezzemolo 井崎さん夫妻

「ウェルカム感」

塘路駅前の元倉庫を改装して工房兼住居に。改装中から地域の人が気にかけてくれて、「ここでお店をやりたい」という気持ちが強くなりました。移住者や観光客に対する「ウェルカム感」がある地域だと思います。

トナカイ
手作りクレヨン工房 Tuna-Kai
岩城朋子さん

「空気のきれいさ」

子どもの頃から喘息に悩んでいたけれど、標茶に来てからは胸いっぱい空気を吸うことができて幸せです。子どもが大きくなったら、湖や森に囲まれた自然の中で思いっきり走り回って過ごしてほしいです。

安田さん夫妻

「コミュニティの強さ」

困ったときはお金じゃなくて助け合いで解決する。田舎ならではの強さがあります。

原田牧場 原田さん夫妻

「自然に対する畏敬の念」

湿原が真っ白な霧のヴェールに包まれる夜明け。辺り一面黄金色に染まる夕暮れどき。そよ風が青葉の香りや鳥の囀りを運んでくるとき。写真も言葉も届かない、唯一無二の迫力を感じます。

THE GEEK 達川慶輔さん

「自然と呼应する人々」

標茶は、本当の自然に触れられる土地。ここで暮らす人たちは否応にも自然と呼应して暮らしています。「春の匂いになったね」、「今年は雪が多いねえ」。自然と共に暮らす人たちの、そんな会話がたまらなく愛おしいです。

中道智大さん

「解放感」

お隣さんは数キロ先で、同業者はいない。周りを気にせず過ごせる「解放感」があります。ここにいると、隣の家の生活音も道路の音もしない。自然の音だけが聞こえてくる。そういう空間の広さも、魅力の一つだね。

ポロニ養鶏場 大木さん夫妻

「湖のある風景」

暮らしのそばに、豊かな自然がある。そう思うだけで心が穏やかになります。

青坂さつきさん

標茶町役場観光工商工課 交流推進係

標茶町川上4丁目2番地

TEL 015-485-2111

MAIL k_koryu@town.shibecha.lg.jp